

再開・再会…さ、行こかい！

研究推進部長 丹生 憲一

緊急事態宣言の解除を受けて、ようやく学校が再開されました。

前号の問いについて考えてもらえたでしょうか？ 3 学年の「総合Ⅲ」では、各担当の先生方の考えたことを話していただき、自分たちの考えをまとめていました。その内容は一斉登校の始まる 15 日に発表される予定です。授業の詳細は裏面に掲載します。

本校職員も、これまで考えたことのないような課題に取り組んできました。まず、課題を郵送して配布し、郵送で回収するという通信講座のような取り組みがなされました。昨年度までは「導入するのか？」「どうやって活用するのか？」と、まだ議論段階だった「動画教材」が一気に導入されています。企業の提供する既製品だけでなく、自らの授業のために作成されたものもあります。

(どれだけ見てくれているかな?) 特に 1 年生は、入学してから先生方の顔を見たのは数回でしたが、「学校紹介」ビデオや、教科担当と学年団が教材について語る「パネルディスカッション」などを見て、どんな先生がいるのか分かったのではないのでしょうか。ZOOM によるオンライン授業やオンライン・ホームルームなども初めての試みでした。最初は及び腰だった先生方も、やらざるを得ない状況に追い込まれ、手探り状態でやっているうちに、すっかりはまって youtuber への転職を考えた先生もいるようです。「在宅勤務(テレワーク)」という働き方を強いられました。それぞれの家から ZOOM を使って会議をしたり、授業や部活動をしたりしていると、こんな方法もあるのだと気づかされます。何事も新たな発見です。

そんな新しい経験、発見ができたとはいえ、皆さんのいない学校は寂しいものです。再開されても、「ソーシャルディスタンス」を保って、食事も黙って…と、煩わしいことを守っていかねばなりません。それでも、登校してくる姿を見て、廊下や教室にはじける笑顔、響き渡る笑い声を聞いていると、気持ちが高まって、教室ではマスクを着けたまま、酸欠になりそうなくらい話してしまうのです。久しぶりにチョークを握って、その感触を忘れかけていたことに気づきます。「やっと学校が始まった！」皆さんも、時には勉強が嫌になることだってあるでしょうけど、この喜びを忘れずに過ごしていきましょう。

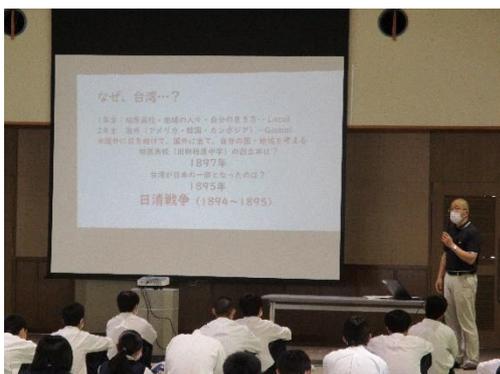
研究推進部もようやく、新年度のプログラムを始動します。

6月2・9日(火) 2 学年 「丹 BAL 台湾」オリエンテーション

2 学年ではグローバル (Glocal) の「グローバル (Global)」にあたる「台湾学習」に入ります。今年度から「総合」「探究」という名称を改め「丹 BAL」として 1 組・2~6 組が同じテーマに沿って進めていきます。もちろん、知の探究コースは課題研究メソッドに基づいて、論文作成を最終目標としていますが、講演会や発表会は共同開催していく予定です。今回のオリエンテーションでは、「丹 BAL 台湾」の「台湾を知る 日本を知る 世界を知る」というテーマを軸に講座の狙いをお話しました。

6月3・10日(水) 1 学年 「丹 BAL 1」オリエンテーション

1 学年では、グローバル (Glocal) の「ローカル (Local)」を学びます。地域の魅力を知り、発信することを学年全体の活動としていきます。同じテーマに沿って、知の探究コースはプレゼンテーションや論文作成を目指し、普通クラスは地域の人々との協働学習に取り組む予定です。今年度は、コロナの影響でどこまで地域の行事に関わって行けるか、そもそも行事が開催されるのかも怪しいところですが、学び・歩みは止めません。この一年の学びが、必ずや将来役に立つと信じて進めていきます。



6月1・8日（月）3学年「総合Ⅲ」 ～私の「新型コロナ」～ 研究推進部・吉田 究

今年度の第3学年総合は「新型コロナ禍」を「教材」に、スタートしました。

世界的にはまだまだ感染拡大が止まず、すでに377,000人を超える人が亡くなっており（3日時点）、悲しく、つらく、苦しい事柄ではあるのですが、戦後誰もが経験したこともないこのような事態を前に「ぼんやり」しているだけでは何も学んだことにならないのではないかと、感染者や医療従事者に対する差別・偏見はなぜ起こるのか、そういったことについて「考える」ことこそが、第2波、第3波の備えとして、実はマスク着用や手洗い励行、ソーシャルディスタンス以上に大事なのではないかとと思うのです（教育においては特に！）。

4月下旬、新聞記事等を集めた（A4×12頁！）「資料」を配布（郵送）し、今般の「新型コロナ禍」がそれぞれに与えた影響、家族や地域などに及ぼした変化、そこから学び、感じ、考えたこと等をワークシートにまとめてもらい、今回はそれを持ち寄って意見発表へと繋げます。ウイルスの特性や感染拡大の実態、医療現場の実状などといった具体的事実だけでなく、それぞれが何を「感じ」、「考え」たかに重点を置いて授業を展開します。調べれば分かる事実以上に、今、自分が、リアルに抱えている感情、感覚、感性こそが大切だと捉え、そこを直視する授業にしたいと考えています。可能ならば各自の進路志望や学問分野に対する興味関心にも関連付け、それぞれ3分間のスピーチを行う計画です。

分散登校のため、初回（1日）の授業はクラスの半分、20名の生徒、しかも、グループワークやディスカッションなどはしばらく、各クラス2名の授業担当者が「問題提起」をし、あとは各自に「考え」てもらおう授業内容としました。

（遠慮がちに）机間巡視（←教育用語ですね。字で書くとちょっとやな感じ…。）をしながら、事前（休校期間中）に記入していたワークシートを覗くと、感染防止の対策を丁寧にまとめてくれているものがあったり、あるいは（思考の道筋が非常に興味深いのですが）「投票に行かないといけない」と書かれたものなどがあったり、今からすでに15日、22日の発表が楽しみでなりません。

我々授業担当者は授業の冒頭に総合学習・探究活動の持つ意義を、そして、我々自身が今回の「新型コロナ禍」で考えたことを語りました。私たちのクラスでは、「経済の低迷が問題になってるけど、地球環境は改善してるっていうし、人間は地球にとって迷惑な生き物なの？」「『自粛警察』の過剰な正義感って本当に善意なの？」などといった話をしたのですが、生徒諸君はちょっと「ぼかあん」としてたかなあ…。(汗)

皆さんがもしそういう「思考」を苦手にしてしまうとすれば、その責任は私たち「発問の下手な教師」にもあるでしょう。私たちは「答えを確認する」のではなく、皆さんに「考え」てもらわないと、「考える」体験をさせないといけません。私たち自身も、この活動の中で、「教育とは何か」「教育に何ができるのか」「どんな力を育てたいのか」などについて「考え」続けたいと思います。そんなことを「感じ」、「考え」た登校再開の初日でした。

